



JSQC ニュース

No.273

発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 第83回品質管理シンポジウム報告
- 2-私の提言 “不都合な真実” に勇気をもって向き合おう!
- 2-ルポルタージュ 第14回YSSルポ
- 3-司馬正次氏ハンガリー政府から大十字勲章を授与/第36年度事業計画
- 4-研究助成募集のお知らせ/10月の入会者紹介/行事案内/新規研究会募集

持続可能な経営のために～グローバルな視点でのブランド力(質)向上～ 第83回品質管理シンポジウム報告

日野自動車(株) 瀧沢 幸男

(財)日本科学技術連盟主催第83回品質管理シンポジウムが、11月30日～12月2日にかけて、紅葉で染まった箱根・小涌園で過去2番目に多い170名の参加を得て開催された。

特別講演1：今後の日本企業が目指す方向性とその課題

奥田 碩氏

(社)日本経済団体連合会 名誉会長

世界の動向を例示しながらグローバルな活動の重要性を強調されると共に、日本人の心のあり方として武士道精神に学ぶべきことと、和の力を最大化するよう説かれた。さらに、品質を大切にされた経営に言及され、トップ自らが現地現物で品質の状況を確認することを強調された。

基調講演：信頼こそ企業価値の原点～CSRとサーバントリーダーシップの視点から～

池田守男氏 (株)資生堂 相談役

「モノから心の重視へ」「グローバルとローカルのバランス、調和を目指す」「近江商人の三方良しという精神に学ぶ、サーバントリーダーシップ」「多様性の尊重と互惠の精神」など多くのご示唆をいただいた。

講演1：「レクサスブランド」強化の取り組みについて

吉田 健氏 (トヨタ自動車(株) 常務役員)

2005年から国内に投入したレクサスブランドについて、ブランドとはお客様との約束として一度約束したことは守る、ブランドづくりは人づくりであるなど、具体的行動を示しながらご紹介をいただいた。

講演2：コーセルにおけるブランド力(質)向上のための経営

町野利道氏 (コーセル(株) 代表取締役社長)

品質至上を核に社会の信頼に応えるため、TQMを中心に据え他の経営手法との関わりを明快にしたうえで、全社でのプロセス管理の徹底を行うなど、多くの具体事例をご紹介いただいた。

講演3：優しさは心の創造～モノ作りの心が伝わる「IBIZA」の顧客満足～

吉田 茂氏 (株)イビサ 取締役会長
 お客様が第一、お客様との長い付き合い合いを徹底して実践した結果が、驚異的な購入履歴に結びついているということに驚嘆。さらに、経営品質賞挑戦を通して仕組み化を進めることで人財育成にもつなげるなどの工夫をご紹介いただいた。

特別講演2：ブランドづくりと人づくり
 井巻久一氏 (マツダ(株) 代表取締役会長 兼 社長 (CEO))

歴代の外国人経営トップとの交流を通して、協業には双方に苦勞が伴うがそれを乗り越えることで深い信頼が生まれることを先ずご紹介いただいた。最後には座右の銘とされている「無心

ならば大道に帰り着く」という言葉で講演を終わられた。

2日間にわたった講演終了後は、7つのグループに分かれて夜遅くまでグループ討論を進め、最終日に発表を行った。

ミニ講演：TQMとブランドマネジメント

加藤雄一郎氏 (名古屋工業大学助教授)

ブランドマネジメントの専門家としての視点から、TQM活動とブランドマネジメントの融合について熱く語られた。ブランドとは、顧客との長期的な約束であること。哲学に裏打ちされた組織が、総合力を持って真の差別化を志向すべきと唱え、TQM活動関係者にも多くの共感を呼んだ。

総合討論の後、主担当組織委員の日野自動車(株)蛇川忠暉会長から、今回のシンポジウムを通して、いずれの講演も経営は「人間」が主役であることを強く主張されていたこと、我々の「人間性」をTQM経営の課題として各人が各社に持ち帰り、広く行動に反映させるようまとめがあった。

今回は、2007年5月31日～6月2日「魅力と安全性・信頼性の実現に向けた新製品開発と品質保証」をテーマに開催が予定されている。是非ご予約おきいただきたい。

● 私 の 提 言 ●

“不都合な真実”に勇気をもって向き合おう！

JUKI株式会社
学会誌編集委員長 光藤 義郎



事務局からの
原稿依頼でやや
バタバタしつつ、
さて提言したい
ことにどんなも
のがあるかツラ
ツラ考えてみた
ところ、不易流
行／本物と偽

物／性善説と性悪説／宗教とQC／QC
人材の育成／コンプライアンスの本
質／QC文化論／TQMの最終ゴール／
弱肉強食論等々、思いの外たくさんあ
ることに我ながらびっくりしました。
今回は紙面の都合上、話題を一つに絞
って提言させて頂きましたので多くの
方のご批判を頂ければ幸いです。

最近、ゴア元副大統領が主演する
『不都合な真実』というアメリカ映画
を見ました。そこで最大のテーマは

“地球環境か経済発展かという本来比
較できないものを天秤に掛けている
現代社会の愚かさ”ということでした。
確かに、掛け替えのない地球を
破壊してまで自らの利やエゴを追い
求める現代社会の姿は何か真に大切
なものを見失っているように思えま
す。

思えば、人類の歴史の中で『お金
が全て』、『金持ち＝人生の成功』、
『成長こそ善』等々、利益（マネー）
が全ての価値基準の中心に位置して
しまったのはいつ頃からなのでしょう
う。随分長く続いてきた価値基準で
すが、この利益第一主義もその終焉
はもう目の前に迫っているような気
もします。何百年か先、人類の歴史
教科書は世界中がマネーに狂騒した
この時代をどのように表現し位置付
けているでしょう。私達は早く目を

覚まし、マネーのために奔走する悪
夢から脱却する必要があるかも知れ
ません。

元々、日本で発達したTQMの目的
は良い品質の製品やサービスを社会
に送り出すことによって人類の平和
と発展に寄与することであり、利益
はあくまで活動の結果／後から付い
てくるもの／その活動を継続させて
いくための資源として位置付けてい
たはずでした。それがいつの間にか
目的と手段がひっくり返り、今では
利益追求の手段に変わってしまった
感じがします。その結果、本来出し
てはいけないはずの不具合が効率優
先風土の中で何となく市場に流出し
ていってしまう、それが最近多発し
ている品質不祥事の源泉にあるの
ではないかという気もしてきました。

品質管理に携わる私達は、早くこ
のことに気付き、声を上げ、勇気
を持って『不都合な真実』を主張して
いく必要があるのではないでしょ
うか。そう、あのゴア元副大統領のよ
うに。

第14回
YSS
ルポ

(社)日本電気協会
裾野研修センター

去る8月28日から29日にかけて、第14回ヤング・サ
マー・セミナー（YSS）が(社)日本電気協会様のご厚意
により同裾野研修センターにて開催された。参加者は
原則35才以下の正会員・準会員で構成され、今年は企
業から2名、大学教員2名、学生19名の計24名が参加
し、講演と研究発表・討論が行われた。

初日は今回のテーマである「商品・製品開発」に関
して、3名の大学の先生、企業の方にご講演いただいた。
まず玉川大学の永井一志先生から「経験価値による
商品開発へのアプローチ」、(株)熊谷組の田中孝司氏
から「商品開発の源はコミュニケーションとイメージ
ーション」、日産車体(株)の大野真也氏から「新型ウィ
ングロードの開発」という演題であった。商品・製品
開発プロセスにおける品質管理の有効活用方法や、社
会に出るにあたり求められる感性などを教えていただ

き、学生にとって大変貴重な時間となった。夜には懇
親会が行われ、普段関わりが少ない若手研究者同士の
親睦を深めるとともに、講演に関する議論や情報交換
などなされ、非常に有意義な時間を過ごした。

翌日は6名の学生による研究発表が行われた。早稲
田大学から子安沙央里さんが「感性品質を反映したボ
ールペンの設計に関する研究」、空花弘道君が「感性
工学を用いたパッケージデザインの設計に関する研究」、
飯島洋平君が「歪んだ分布に対する上限規格の
みある場合の工程能力指数」、武威工業大学の丸山裕
之君が「消費者の購買予測」、東京理科大学の渡邊吾
郎君が「分割実験における直交表を用いた因子の割り
付け」、名古屋工業大学の榊原茂人君が「企画品質の
ばらつきの要因解析」という題目で発表し、様々な視
点からの研究内容に対して活発な議論が行われた。

本セミナーは今後の品質管理学会を担う次代の若手
の研鑽に大きな役割を果たすものである。こうした機
会を与えていただいた学会の皆様へ感謝すると共に、
今後とも本セミナーや、本年度から活動が統合された
インカレゼミに多くの若手が参加することを期待した
い。

新田 純平（東京大学）

本学会名誉会員の司馬正次氏がハンガリー政府から大十字勲章を授与

村川賢司（前田建設工業株）

司馬正次先生が、2006年11月6日にハンガリー共和国の国会において上院議長から民間人として最高位の「大十字勲章」(GRAND CROSS ORDER OF MERIT OF THE REPUBLIC OF HUNGARY)を授与されました。受賞理由は、ハンガリー全体の品質向上に約20年にわたり貢献されたことによります。

司馬先生は、1987年に産業大臣の要請に基づき同国の産業全体にTQCを導入し、指導者を養成されました。この指導者たちが現在に至るまで各地でリーダーとして品質管理を推進し、産業発展の大きな原動力になったと言われています。

また、1989年に同国産業省によって設立された

「IIASA-司馬品質賞」では、産業大臣、内務大臣、教育大臣の列席のもとで質向上に貢献した企業・団体、グループ、個人を顕彰することを通じて同国産業の品質向上に尽力されています。

司馬先生は次のように語っておられます。

「1987年以来の貢献が認められたことは嬉しいことです。決して見返りを期待してやってきたわけではないのですが、ハンガリーの人々の温かさには心を打たれます。自分たちがよいと思ったことは20年続け、それに強く共感を示す。ハンガリー動乱を越えてきた強さと通じるものを感じています。私自身を振り返り、日本人にないもののような気がします。」

(社)日本品質管理学会第36年度事業計画

行事 / 月	H18 10月	11月	12月	H19 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
年次大会・通常総会	第36回 28日(土)												第37回 26(金)-27(土)
研究発表会	本部							第83回 26(土)-27(日)					
	中部									第85回			
	関西							第84回					
講演会						第99回 本部 第101回 関西			第102回 中部				
ヤングサマーセミナー											第15回		
シンポジウム	第109回 3日(火) 関西	第112回 25日(出) 本部 JUSE千駄ヶ谷				第113回 関西	第114回 本部			第115回 中部 第116回 本部	第117回 関西		
事業所見学会	本部					第321回		第324回		第327回			
	中部						第319回		第322回		第325回		
	関西	第318回 4日(火) 神戸堂港ターミナル			第320回		第323回		第326回		第328回		
クオリティパブ				第54回	第55回		第56回		第57回		第58回		
その他の行事									第23回FMES シンポジウム 29日(金)			5th ANQ 16-18 ソウル郊外	
会合 / 月	H18 10月	11月	12月	H19 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
理事会	358回 12日(木)		359回 7日(木)		360回 26日(月)			361回 17日(木)		362回 17日(火)		363回 13日(木)	353回 11日(木)
庶務・会員サービス・規定・ 広報・Web・会計合同委員会	5日(木)	30日(木)			19日(月)			10日(木)		10日(火)		6日(木)	4日(木)
論文誌編集委員会	20日(金)	16日(木)	14日(木)	19日(金)	15日(木)								
学会誌編集委員会	6日(金)		4日(月)		6日(火)								
事業委員会	13日(金)		6日(木)										

※論文投稿は委員会の開催10日前までをお願いいたします。直前の投稿では審査開始が遅れることがあります。

事務局からのお知らせ

(社)日本品質管理学会30周年記念事業
第36年度研究助成募集要項

1. 趣 旨

21世紀を担う若手研究者や海外からの留学生に対し、その研究活動をサポートすることを目的とします。個人の研究への助成はもちろん、同じようなテーマを抱えた少数の若手研究者の研究集会への助成、海外の若手研究者の招聘への助成なども含みます。

2. 助成金額：1件10万円 5件以内

3. 期 間：1年間（第36年度：平成18年10月から平成19年9月）

4. 募集の対象

選考時に申請者が(社)日本品質管理学会の正会員もしくは準会員であり、次のいずれかの条件を満たす者としてします。

(1)申請時に35歳以下であり、大学、研究所、研究機関、教育機関等において研究活動に従事する者。

(2)申請時に日本の大学院に在籍する外国籍の留学生。

(3)申請時に35歳以下であり、海外の大学、研究所、研究機関、教育機関等において品質管理についての研究活動に従事する者で(社)日本品質管理学会の主催する諸行事、または品質管理に関連する研究集会に参加しようとする者。ただし、申請は招聘者が行うこととします。

5. 助成対象：品質管理に関連した研究に対する助成を対象とします。

6. その他の申請条件

(1)報告書は所定の様式で提出してください。

(2)研究成果を当学会誌へ投稿、あるいは研究発表会などで発表することを奨励します。

(3)学生が申請をする場合、申請時に指導教官・指導教員の所見を必要とします。

7. 申請の方法

所定の「(社)日本品質管理学会 研究助成交付申請書」を用いてください。申請書の様式はホームページを参照してください。

8. 募集期間：平成18年12月～平成19年3月末日

9. 選考方法

(社)日本品質管理学会研究助成委員会が審査選考を行います。

10. 決定通知

平成19年4月中に通知します。なお、決定数が5件に達していない場合、追加募集をすることもあります。

11. 申請書提出先

(社)日本品質管理学会 本部事務局

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1

TEL 03-5378-1506 FAX 03-5378-1507

E-mail: office@jsqc.org URL: www.jsqc.org

2006年10月の 入会者紹介

2006年10月12日の理事会において、下記の通り正会員13名、準会員3名、賛助会員2社の入会が承認されました。

.....
(正会員13名) ○山田 晋司 (鎌田醤油)
○中村 秀博・山中 ひろみ (香徳会
関中央病院) ○本多 博 (アイシン高
丘) ○館脇 文紀 (東京電力) ○若松
哲史 (富士写真フィルム) ○本間 義
英 (キャノンマシナリー) ○添田 行
雄 (エグゼクティブ コンサルタンツ
インターナショナル) ○小山 保 (帝
人ファーマ) ○水頭 健太郎 (東京工
業大学) ○大西 豊 (NECライティン
グ) ○蟹江 敏広 (松村石油研究所)
○長尾 英二 (森永乳業)

.....
(準会員3名) ○ポンパンプーパックデ
ィー チャンオーン (東京工業大学)
○牛越 弘・浦上 豊生 (明治大学)

.....
(賛助会員2社2口) ○出光興産○三菱重
工業

正 会 員：2950名

準 会 員：113名

賛助会員：174社201口

公共会員：22口

行 事 案 内

●第83回研究発表会（本部）発表募集

日 時：2007年5月26日(土)・27日(日)

会 場：日本科学技術連盟
東高円寺ビル

(1)申込期限

発表申込締切：3月16日(金)

予稿原稿締切：4月20日(金)必着

参加申込締切：5月16日(水)

(2)研究発表・事例発表の申込方法

同封の発表申込要領をご覧ください。

(3)参加申込

3月送付の参加申込書にご記入の上、
本部事務局までお申し込みください。

行 事 申 込 先

本 部：TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

新規研究会を受け付けます

研究開発委員会では、本年度に設置する新規公募研究会の申請を受け付けます。奮って申請してください。とくに若手会員を主査とする研究会を歓迎いたします。

研究期間：2007年4月～2008年3月（1年間）

申請方法：「新規研究会設置申請書」（様式204-1）をホームページよりダウンロードし、ご記入の上、郵送で本部事務局宛にお送りください。
http://www.jsqc.org/ja/oshirase/kenkyuukai_shinki.html

申込締切：2007年2月13日(火)必着

研究会の申請と運営：

○研究会の申請にあたり、申請者は共同研究者（学界・産業界）を5～10人位事前に働きかけて集め、申請書に記入する。理事会承認後JSQCニュースでメンバーを公募する。

○研究目的と年間の研究活動計画を作成する。

○1研究会のメンバーは20人まで。

○会場は原則として日本科学技術連盟東高円寺ビル会議室。

○時間は18時～20時。ただし会場の都合がつけば午後でも可。食事支給。

○研究会運営費は一人1回当たり1150円（内訳：通信費・資料代・食事代）ただし年間開催数は11回を限度とする。